

科目名			リウマチ内科専門医養成講座		
科目責任者			中山田 真 吾	(第1内科学 教授)	
担当者			山 形 薫	(第1内科学 講師)	
			宮 川 一 平	(第1内科学 講師)	
開講時期:			1～4年次	単位数:	2 単位
				時間数:	90分× 15 回
● 科目の教育目標 一般目標 (GIO) 膠原病・リウマチ内科専門医資格の取得を目指す。膠原病・リウマチ内科専門医とは、膠原病・リウマチ性疾患の診療に必要な知識と技能を有する医師である。これらは、全身の各臓器にわたる病変を対象とする疾患であるため、専門的な医療によつて的確な診断と治療を行い、臓器障害の発生・進行を防ぎ、生活の保持・向上に努めることが求められる。また、免疫学、臨床免疫学の基礎知識の習得し、病態を理解する必要がある。同時に、免疫難病に対する生物学的製剤やキナーゼ阻害薬等の新規治療の開発を目指したトランスレーショナルリサーチを実践し、免疫難病の病態制御を目指した先端医療を展開する。さらに、破壊された関節に対しては、iPSや間葉系幹細胞などを用いた再生医療が期待される。臨床免疫学の治療の最先端に関して概説する。 行動目標 (SBOs) 1) 膠原病・リウマチ性疾患の病態、診断、治療、管理、保健と福祉等に関する知識、技能、態度を習得する。 2) 適切かつ安全な膠原病・リウマチ性疾患の診療を提供できる専門医としての能力を取得する。 3) 膠原病・リウマチ性疾患を継続的に学習し、臨床的能力を維持できる。 4) 膠原病・リウマチ性疾患の症状、理学的所見を系統立てて列挙し習得する。 5) 膠原病・リウマチ性疾患の検査法、診断法、鑑別診断法を系統立てて列挙し習得する。 6) これらの疾患群間に併発する多臓器障害について系統的・多角的に理解する。 7) これらの疾患群の治療に用いる薬剤とそれらの相互作用について習得する。 8) 免疫難病に対する生物学的製剤やキナーゼ阻害薬等の分子標的治療の実践と評価法を習得する。 9) 免疫難病の病態制御を目指した臨床試験、先端医療を展開する。 10) iPSや間葉系幹細胞などを用いた再生医療など次世代の医療を理解する。 11) 他の専門領域、免疫学、病理学、分子生物学との共同研究の重要性をを理解し実践する。					
● 評価方法		発表等 60%、討論等 20%、レポート等 20%により総合的に評価する。			
● 参考文献		講義の中で必要に応じ紹介する。			